



現代日本政治論 B



宇野・海部・宮沢内閣

浅野正彦

1

1



| 総理大臣氏名 | 就任日 | 与党 |
|--------|-----------|-----------------------------|
| 鳩山一郎 | 22-Nov-55 | LDP |
| 石橋湛山 | 23-Dec-56 | LDP |
| 岸信介 | 10-Jul-57 | LDP |
| 池田勇人 | 19-Jul-60 | LDP |
| 佐藤栄作 | 3-Jun-65 | LDP |
| 田中角栄 | 7-Jul-72 | LDP |
| 三木武夫 | 9-Dec-74 | LDP |
| 福田赳夫 | 24-Dec-76 | LDP |
| 大平正芳 | 7-Dec-78 | LDP |
| 鈴木善幸 | 17-Jul-80 | LDP |
| 中曾根康弘 | 11-Nov-82 | LDP (+NLC) |
| 竹下登 | 31-Oct-87 | LDP |
| 宇野宗祐 | 3-Jun-89 | LDP |
| 海部俊樹 | 10-Aug-89 | LDP |
| 宮沢喜一 | 5-Nov-91 | LDP |
| 細川護熙 | 9-Aug-93 | JNP+JRP+NPH+JSP+DSP+SDF+CGP |
| 羽田孜 | 29-Apr-94 | JNP+JRP+DSP+SDF+CGP |
| 村山富一 | 30-Jun-94 | LDP+JSP+NPH |
| 橋本龍太郎 | 11-Jan-96 | LDP+JSP+NPH |
| 橋本龍太郎 | 7-Nov-96 | LDP |
| 小渕恵三 | 30-Jul-98 | LDP+CGP+LP |
| 森喜朗 | 5-Apr-00 | LDP+CGP+CP |
| 小泉純一郎 | 26-Apr-01 | LDP+CGP+CP |
| 安倍晋三 | 6-Sep | LDP + CGP |
| 福田康夫 | 7-Oct | LDP + CGP |

2

2

1

 日本の政治家
宇野 宗佑
うの そうすけ



内閣官房内閣広報室より
公表された肖像写真

生年月日 1922年8月27日
出生地 日本 滋賀県野洲郡守山町
(現 守山市)
没年月日 1998年5月19日 (75歳没)
死没地 日本 滋賀県守山市 (滋賀県立成人病センター) [1]
出身校 彦根高等商業学校
(現 滋賀大学経済学部)
神戸商業大学 (現神戸大学) 中退

宇野内閣 (1989/6/3 – 8/10)

- リクルート事件 + 消費税導入
 - 竹下内閣の支持率が急落
 - 竹下首相が辞意を表明 (1989/4/25)
- ポスト竹下と目されていた安倍晋太郎、宮澤喜一、渡辺美智雄ら自民党の有力者は軒並みリクルート事件に関与
- 伊東正義、田村元、坂田道太、後藤田正晴からも断られて後継の総理総裁選びは難航
 - リクルート事件との関連性が薄い外務大臣の宇野が後継総裁に擁立 (竹下裁定)
- 1989/6/2 自民党両院議員総会で「起立多数」で自民党総裁派閥領袖ではない自民党総裁は宇野が初めて
- 1989/6/3 宇野内閣が発足
- 党三役の経験も無く知名度が低かった宇野
- **1989/6/4 中華人民共和国で六四天安門事件**
 - 第三次円借款を凍結
 - 三塚博外相と共に「中国の孤立はさせない」とサミットで主張 → 他の西側諸国と距離を置く**

3

3



[六四天安門事件30周年 当時の写真2000枚を初公開：Youtube](#)

[天安門事件を正当化 中国政府「道は正しかった」\(20/06/04\)](#)

[天安門事件から30年 中国が忘れた映像](#)

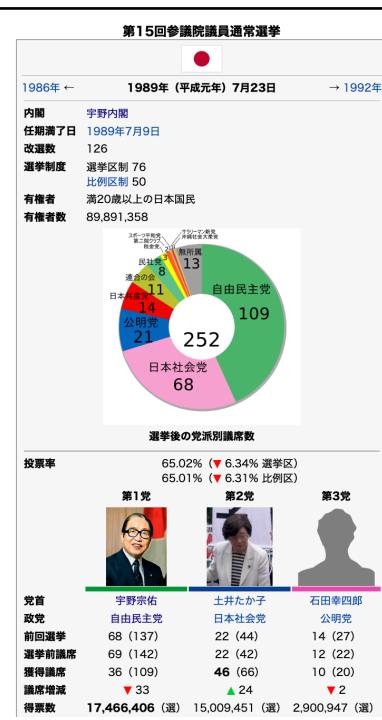
4

4

- 対中制裁に反対した（＝慎重派）政治家：
- 中曾根康弘、鈴木善幸、竹下登
- 宇野が退任後訪中した際（1990/5/7）江沢民からサミットでの対応に感謝される
- 1989/6/6宇野の女性スキャンダル（『サンデー毎日』）
- 初めは国内の他のマスコミは無視
- 外国メディアに「セックススキャンダルが日本の宇野を直撃」
(ワシントンポスト紙)等と掲載
- 日本のメディアでも取り上げられる
- 1989/7/23 第15回参議院議員通常選挙で自民党大敗
- 宇野は敗北の責任を取り退陣を表明
- 会見で「明鏡止水の心境であります」と発言
- 1989/8/8 自民党両院議員総会で海部俊樹（河本派）が新総裁に選出
- 宇野の総理在任期間はわずか69日
- 日本政治史上 4 番目の短命内閣

5

5



従来の3点セット（リクルート問題、消費税問題、牛肉・オレンジの輸入自由化問題）

+

マドンナブーム

+

宇野首相の女性問題

↓

自民党大敗（69議席→39議席）

特に一人区では3勝23敗と惨敗

参議院では結党以来初めての過半数割れ

6

6

 海部内閣 (1989/8/10 - 1991/11/5)

| | |
|--|--|
|  <small>● 日本の政治家 海部 俊樹 かいふ としき</small> <small>内閣官房内閣広報室より 公表された肖像写真</small> | <p>生年月日 1931年1月2日 (89歳)</p> <p>● 出生地 愛知県名古屋市東区七曲町 (現・東区東桜1丁目)</p> <p>出身校 中央大学法学部 早稲田大学法学院法学校修了 課程中途退学</p> <p>前職 政治家秘書 衆議院議員 内閣総理大臣</p> <p>現職 日本ソフトテニス連盟会長 大正協会理事長 日本ティーボール協会会長 (自由民主党→) (高志会→) (自由改革連合→) (新進党→) (無所属の会→) (自由党→) (保守党→) (保守新党→) 自由民主党</p> <p>所属政党</p> |
|--|--|

- 参院選で自民党が過半数割れ
→ねじれ国会に突入
- 首班指名選挙では、衆議院は海部、参議院は土井たか子を指名
→両院協議会で協議 → 両院の意見は一致せず
→「衆議院の優越」により、海部が内閣総理大臣に就任
- 海部は初の昭和生まれの首相
- バブル景気の真っただ中で経済は好調
- リクルート事件によって国民の間に強い政治不信
- 清新的なイメージで颯爽と登場した海部に大きな期待
- 組閣→「リクルート・ページ」
- リクルートと関係の薄い政治家を優先的に登用
→自民党内の不満が高まる → 政治改革法案が廃案になる
- 第1次海部内閣発足直後、内閣官房長官山下徳夫の女性スキャンダル
- 海部首相は山下を更迭→森山真弓（環境庁長官）を横滑り
→女性初の官房長官を誕生させる
- 海部首相、各種行事に夫婦同伴で出席 → 女性層の支持拡大
- 1990年の第39回衆議院議員総選挙で自民党が大勝

7

7

 第1次海部内閣—1989年8月10日成立



The photograph shows the members of the First Cabinet of Kiichi Miyazawa. It consists of approximately 20 men and women in formal attire, including suits and dresses, arranged in four rows. The front row has five people, the second row has six, the third row has five, and the back row has five. They are posed in front of a dark background, likely the Japanese government building.

8

8

第39回衆議院議員総選挙

1986年 ← 1990年（平成2年）2月18日 → 1993年

内閣 第1次海部内閣
解散日 1990年（平成2年）1月24日
解散名 消費税解散
公示日 1990年（平成2年）2月3日
改選数 512
選挙制度 中選挙区制 [注釈 1]
有権者 滞20歳以上の日本国民
有権者数 90,322,908

選挙後の党派別議席数

| | |
|-------|-----|
| 自民党 | 512 |
| 公明党 | 275 |
| 日本社会党 | 136 |
| 民主党 | 45 |
| 其他 | 21 |

投票率 73.31% (▲ 1.91%)

第1党 海部俊樹 (有) 第2党 土井たか子 (無) 第3党 石田幸四郎 (有)

党首 海部俊樹 土井たか子 石田幸四郎
政党 自由民主党 日本社会党 公明党
党首就任 1989年8月 1986年9月 1989年5月
党首選挙区 愛知3区 兵庫2区 愛知6区
前回議席 300 85 56
選挙前議席 295 83 54
獲得議席 275 136 45
議席増減 ▼20 ▲53 ▼9
得票数 30,315,417 16,025,472 5,242,675
得票率 46.11% 24.39% 7.98%

9

9

海部俊樹の脆弱な自民党内基盤



- ・海部の党内基盤は脆弱
- ・自民党にとってはその場しのぎの「看板」に過ぎない
- ・海部は自民党で中小派閥である河本派の幹部
- ・元首相の竹下が自派の頭数をもって海部を押し上げた結果の総理就任
- ・第1次海部内閣の発足時、首班指名の1時間後に党三役が決定
- 小沢一郎新幹事長らが各派と連絡を取りながら海部抜きで組閣を進めた
- 海部は隣の応接室で待たされ、人事に一切関わらない
- 首相官邸に海部と三役が移動 → 小沢幹事長主導で組閣
- 首班指名からわずか5時間で新閣僚名簿が発表された
- 「**海部さんは重大な法案などを決める時には金丸、竹下両氏の判断を仰いでいた**
(石原信雄・元内閣官房副長官の回顧録：在任1987-1995)
- 金竹小（金丸・竹下・小沢）が海部首相以上に強い影響力

10

10

🔊 海部内閣の外交

- 1991年、小沢主導により**湾岸戦争**の戦費として多国籍軍に130億米ドルもの資金を提供
- 戦後クウェートの新聞に載せられた感謝広告に日本の国旗が掲示されず
→その後改められた

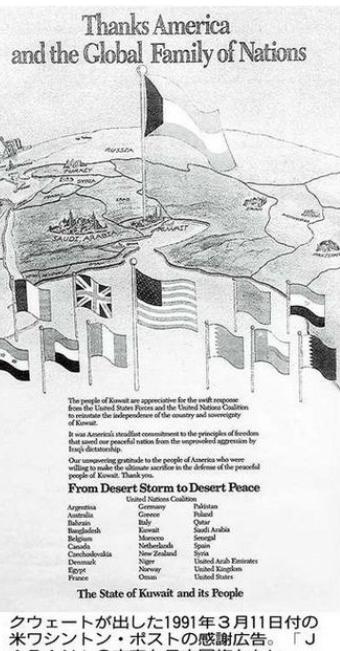
これに対して左右両派からの批判

- 右派：「金だけだして人出さない」「似非国際貢献」
- 左派：「アメリカの言いなりになり無駄金を拠出した」
- 停戦後 → 海上自衛隊掃海部隊をペルシャ湾に派遣
(自衛隊創設以来初の海外実任務)

[1990年 湾岸戦争、開戦: Youtube](#)

11

11



12

12

海部内閣の外交

- 対中制裁反対派の中曾根康弘・鈴木善幸・竹下登元首相が海部に制裁解除を迫る
- 世界から孤立しかかった中国に天安門事件後の西側先進国首脳では初めて訪問
- → 円借款を再開
- 当時のジョージ・H・W・ブッシュ大統領は制裁全面化に消極的
- 秘密裏にヘンリー・キッシンジャーを中国に派遣
→ 民主化運動家の方励之（ほうれいし）の出国をめぐる交渉を行う



ヘンリー・キッシンジャー
元国家安全保障問題担当大統領補佐官

ヘンリー・アルフレッド・キッシンジャーは、アメリカ合衆国の国際政治学者。ニクソン政権およびフォード政権期の国家安全保障問題担当大統領補佐官、国務長官。[ウィキペディア](#)

生年月日：1923年5月27日（年齢 97歳）
生まれ：ドイツ フルト
身長：175 cm
配偶者：ナンシー・キッシンジャー（1974年から）、アン・フライシャー（1949年 - 1964年）
学歴：ハーバード大学（1952年-1954年）、ハーバード大学（1952年）。さらに表示

方励之

ほうれいし
物理学者



方励之は、天体物理学者、中国の民主化運動家。
[ウィキペディア](#)

生年月日：1936年2月12日

生まれ：中華人民共和国 北京市

死亡：2012年4月6日、アメリカ合衆国 アリゾナ州 ツーソン

13

13

内閣総辞職

- 政策の目玉として取り組んだ政治改革関連法案が国会で審議未了廃案
→ 海部首相は「重大な決意で臨む」と発言
→ 「衆議院の解散を意味する発言である」と受け取られた
- 首相にとって「伝家の宝刀」の異名を持つ解散権は、総理大臣の専権事項
- 自民党内の反海部勢力から大反対（海部おろし）
- 竹下派親小沢勢力が明確に解散不支持を表明
→ 海部は結局解散に踏み切ることができず
- 海部を支持してきた竹下派親小沢勢力が海部の不支持を表明
- 宮澤喜一、三塚博、渡辺美智雄らが総裁選に立候補を表明
- 海部を支持するのは自身の派閥である小派閥の河本派だけ
→ 総裁選に再選できる道は閉ざされる
- **1991年11月5日、海部は総理大臣を辞職**
- 首相在任日数 818日 → 衆院で内閣不信任決議が採決されなかつた首相としては最長日数記録

14

14

宮澤喜一 略歴

(音声)

| | |
|--|--|
|  <small>● 日本の政治家 宮澤 喜一 みやざわ きいち</small> | |
| <small>内閣官房内閣広報室より 公表された肖像写真</small> | |
| <small>生年月日 1919年10月8日 出生地 ● 日本 東京府東京市 没年月日 2007年6月28日 (87歳没) 死没地 ● 日本 東京都渋谷区 出身校 旧制武蔵高等学校 東京帝国大学 (現・東京大学) 法学部政治学科卒業 前職 大蔵省大臣秘書官 所属政党 (自由党→) 自由民主党 称号 法学士 (東京帝国大学・1941年) 広島県名譽県民 福山市名譽市民 親族 小川平吉 (祖父) 宮澤裕 (父) 小川平二 (叔父) 斎藤樹 (義叔父) 宮澤弘 (弟) 小川元 (従弟) 宮澤洋一 (甥) 宮澤エマ (孫)</small> | |

1919年 東京都生まれ

1939年 東京大学法学部卒業

1942年 大蔵省に入る

1949年 池田勇人蔵相秘書官

1951年 サンフランシスコ講和会議全権随員

1953年 参院議員に初当選 (広島県選挙区 二回当選)

1962年 経済企画庁長官 (第二次池田内閣) 42歳

→所得倍増計画の一翼を担う

1966年 経済企画庁長官 (佐藤内閣)

1967年 衆議院議員に転じる (十二回当選)

1970年 通産大臣 (佐藤内閣)

1974年 外務大臣 (三木内閣)

1977年 経済企画庁長官 (福田内閣)

15

15

(音声)

1980年 宮房長官

**1986年 大蔵大臣 (中曾根内閣)
宮澤派 (宏池会) 会長**

**1987年 副総理兼蔵相 (竹下内閣) --- 中曾根の裁定
消費税導入に尽力
→リクルート事件で辞任**

1991年 首相

1993年 宮澤内閣不信任案可決 → 退陣表明

1998年 大蔵大臣 (小渕内閣) . . . 「平成の高橋是清」

1998年 大蔵大臣 (森内閣) . . . 初代「財務大臣」

**2003年 小泉首相の要請で議員を引退
→ 地盤を甥の宮澤洋一に譲る**

2007年 死去 (87歳)

城山三郎『官僚たちの夏』

経済企画庁長官「矢沢」のモデル

(音声)

城山三郎
Shigeyasu Yamada

官僚たちの夏

新潮文庫

16

16




**みやざわ エマ
宮澤 エマ**

別名義 ラフルアー宮澤エマ（旧芸名）
 生年月日 1988年11月23日 (29歳)
 出身地 ● 日本・東京都^[1]
 身長 156cm^[1]
 血液型 O型^[2]
 職業 タレント
 活動期間 2012年 -
 活動内容 ミュージカル女優
 著名な家族 小川平吉（高祖父）
 宮澤裕（曾祖父）
 宮澤喜一（母方の祖父）
 クリストファー・ラフルアー（父）

母方の祖父は第78代内閣総理大臣の宮澤喜一。母は宮澤喜一の長女で、父はアメリカ人で元駐日代理大使クリストファー・ラフルアー。

幼稚園の年少から年長まで父親の仕事の関係でアメリカで暮らす。その後帰国し、森村学園初等部、聖心インターナショナルスクールを卒業した後、アメリカ合衆国カリフォルニア州のオクシデンタル大学で宗教学を専攻。大学3年の時にはケンブリッジ大学へ留学している。

17

17




海部首相の退陣 → 自民党総裁選(1991)

出馬予定者： 宮沢喜一、渡辺美智雄、三塚博

小沢一郎(竹下派会長代行)

出馬予定の三候補を事務所に呼びつけ → 面接

「人気、実力、見識、品格」を基準に宮沢を選ぶ

竹下派が宮沢を支持

→ 宮沢喜一が首相に就任 (72歳)

18

18



保守本流のエース、国際派の総理大臣として大きな期待

竹下派の支配下 → 思い通りの政権運営できず

宮沢政権の業績

カンボジアでのPKO活動の必要性が急浮上

→ PKO(国連平和維持活動)協力法が成立

→ カンボジアへ自衛隊を派遣

派遣された文民警察官と、国連ボランティアが殺害

→ 政権に大きな衝撃

19

19



自衛隊カンボジア派遣 (1992.9-)

国際平和協力法に基づいて

国際連合平和維持活動(PKO)の一環として

自衛隊が、カンボジアへ派遣されたこと

施設大隊(施設科部隊)

停戦監視要員

自衛隊以外からの派遣

文民警察要員

選挙監視要員

20

20



自衛隊 … 2度目の海外派遣

1度目…ペルシャ湾派遣 (1991年)

自衛隊法第99条を根拠

海上自衛隊の掃海部隊が派遣

(海中に敷設された機雷を取り除き安全にする部隊)

2度目の海外派遣…陸上自衛隊にとっては初

国連の枠組みで活動

PKO活動としても初の試み

21

21



施設大隊の業務

国連カンボジア暫定機構(UNTAC、United Nations Transitional Authority in Cambodia)の指図の下

国際平和協力業務を実施

建設(道路・橋等の修理等)

「UNTAC構成部門等に対する水又は燃料の供給」

「　　〃　　物資等の輸送」

「　　〃　　医療」

「　　〃　　給食」

「　　〃　　宿泊又は作業のための施設の提供」

22

22



武器使用

施設大隊は、小型武器として拳銃及び小銃のみ携行

現地のゲリラ兵よりも軽装備の武装

自衛官の自衛が可能なのか？

国内外の刺激を抑えるためにも軽装備のみ

「自己又は自己と共に現場に所在する他の自衛隊員、国際平和協力隊の隊員の生命又は身体を防衛するためやむを得ない必要があると認める相当の理由がある場合には、**その事態に応じ合理的に必要と判断される限度で武器を使用することができる**」
 (国際平和協力法第24条)

23

23



バブル景気崩壊後の金融不安

金融機関への公的援助を示唆 (1992.8)

官庁や経済団体、金融機関から強い反対

→ 公的援助は実現せず

リクルート事件 → 政治改革への機運が高まる

宮澤は政治改革関連法案の成立を目指す

→ 反対があり、政治改革を断念

24



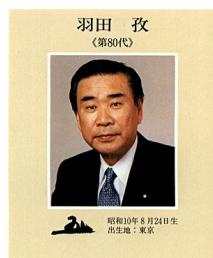
竹下派会長の自民党副総裁 金丸信 辞職

東京佐川急便からの5億円献金問題と暴力団との関係を追及

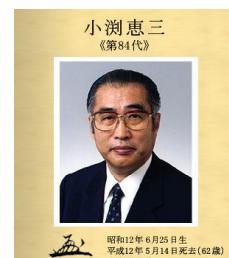
→ 副総裁、議員を辞職 (1992.10.14)

→ 竹下派が分裂

羽田派



小渕派



25

25



野党が宮沢内閣不信任案を提出 (1993.6)

羽田派が賛成 → 自民党分裂

→ 不信任案は可決

→ 宮沢首相は衆議院を解散

不信任案に賛成した自民党議員らは離党

羽田派 → 新生党を結成

武村正義 → 新党さきがけを結成

細川護熙 → 日本新党を結成

26

26



1993年 総選挙

自民党は過半数を大きく割り込む→宮沢首相は退陣

社会党も大敗

日本新党を中心とした野党勢力が議席を獲得

細川内閣に政権を明け渡す

東西冷戦→「保革対立」図式の上に成り立つ「55年体制」は終焉

自民党内における「疑似政権交代」の終わり

宮澤は自民党長期支配38年の最後の首相

宮澤喜一…「自民党の徳川慶喜」(どちらも15代目)

27

27

宮澤喜一 単著

『聞き書 宮澤喜一回顧録』
(御厨貴・中村隆英編, 岩波書店, 2005年)

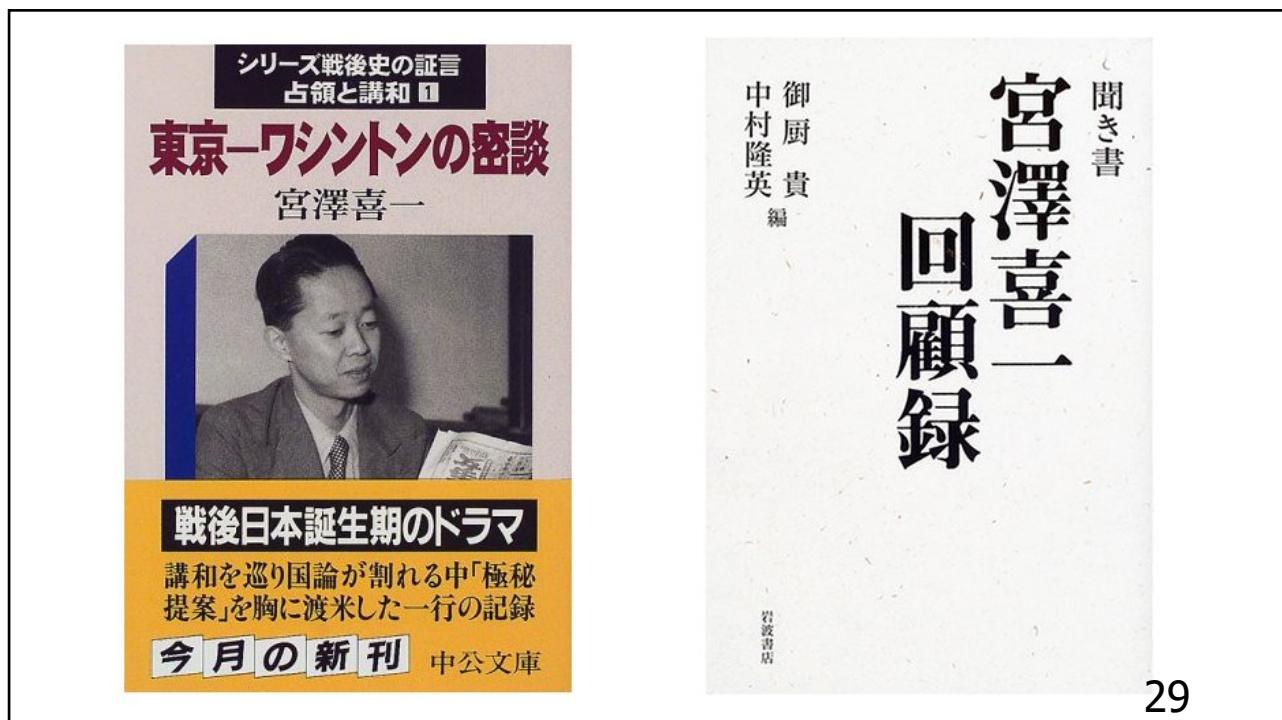
『東京一ワシントンの密談』
(実業之日本社, 1956年/中央公論社[中公文庫], 1999年)

『戦後政治の証言』(読売新聞社, 1991年)

『社会党との対話——ニュー・ライトの考え方』(講談社, 1965年)

28

28



29



30